



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2015年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 聖書日課に励もう
3. 祈り会に参加しよう
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧師 : 杉村 幸 (日語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimurai950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

◎石叫 ■ 「ネパール被災者」

この五月6日の『羅府新報』に、「ネパール被災者・助け合いの精神」という記事が載った。東日本大震災同様、略奪や暴動が見られなかった国である。「二〇〇六年のジャワ島中部地震で被災後に略奪や暴力行為が発生するなど、今回のネパール地震と同様レベルの災害では過去、略奪や暴動がニュースになってきた。だが、首都カトマンズ最大規模の避難所となったラトナ公園では約二五〇〇人がテント暮らし。毎日、ネパール軍による配給がある。配給のたびに千人以上の列ができるが、整然と一列に並び、割り込む人もいなければ、救済物資を奪い合うこともない。テントで暮らす4人家族のダルマラール・サキアさん(44歳)は、『ここに来れば皆さんが助けてくれる。大変ありがたいことだ。皆で分け合えば、なるようになるし、騒いでも仕方がない』と話す。ネパールに十四年間在住する酒卸会社経営、高田英明さん(48歳)は『持てるものが持てない者に与える助け合いの精神があり、物を奪ったりした人は強く非難され、その社会で生きていけなくなる。輪廻転生の宗教的精神もあり、起こったことに對し悔やむのではなく、あっさりとな得するという気質がある』と説明する。カトマンズで医療支援活動に携わる陸上自衛隊の佐藤裕己・2等陸曹(34歳)は、東日本大震災でも震災直後から2ヶ月、被災者の巡回検診をした経験がある。佐藤氏は「被災されたネパール人は、日本人と同じように結構、表情が明るくて気持ちのよい対応をされる。こちらが逆に元気をもらおう」と話す。ただ、在ネパール日本人会の水橋雄太郎会長(54歳)は、『今は無事を親族たちと喜び合うことの方が大事。長期的には、家を失った人や仕事がなくなった人を助けていく必要がある』と継続的な支援の必要性を訴えた(編集)。

パウロは、「おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい」(ピリピ二・4)と勧める。私たちは隣人を愛するために、神から命をいただいたている、だから、自分のことのように他者を愛せよというのだ。ネパール人の中には、大災害の中でも、互いに助け合って生きて行こうという文化的背景の素晴らしさや、慎ましく生きている彼らに学ぶことは多い。だが、そういう彼らにも福音の支援は必要不可欠である。たとえ一時的に援助で急場をしのげたとしても、彼らの心が本当に満たされるのは、親身に命を投げ打ってまでも十字架について私たちをおもんばかって下さる主イエスだからだ。永遠を見据えた援助こそ、本当に人々に喜ばれるありかただと思うのだが、いかがであろう。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

